

食物アレルギー 小児(2)

豆腐を摂取後に消化器症状を認めた一例

西村幸士(国立成育医療研究センター総合アレルギー科)

監修

福家辰樹(国立成育医療研究センター総合アレルギー科医長)

成田雅美(東京都立小児総合医療センターアレルギー科医長)

1. 症例

○ 0歳6か月 男児

身長: 69cm (+0.5SD) 体重: 7.8kg (-0.2SD)

○ 主訴: 嘔吐、下痢

○ 現病歴

- ✓ 生後5か月 豆腐を5mm角程度摂取したが症状なし
- ✓ 生後6か月 豆腐を2cm角程度摂取して4時間後に嘔吐4回、下痢1回が出現した。
- ✓ 翌日に近医を受診し、再度少量から試すよう指導された。
- ✓ 1週間後に自宅で豆腐5mm角程度を摂取したところ、1時間後に嘔吐4回を認めため、当院を受診した。

1. 症例

○ 0歳6か月 男児

身長: 69cm (+0.5SD) 体重: 7.8kg (-0.2SD)

○ 主訴: 嘔吐、下痢

○ 既往歴 : 生後1か月に乳児湿疹を指摘された

○ 家族歴 : 父アトピー性皮膚炎、母アレルギー性鼻炎

○ 接触歴 : 兄が2週間前に感染性胃腸炎に罹患

1. 症例

○ 初診時現症

体温37.0°C 心拍数116回/min SpO2 99%(室内気)

意識清明 独歩可能

眼瞼結膜蒼白なし

呼吸音:清

心音:純、整

腹部:平坦、軟、圧痛なし、腫瘤触知せず、腸蠕動正常

肝脾腫なし

筋緊張低下なし

浮腫なし

2. Question

○ 鑑別診断は以下のどれ？

A: 食物アレルギー

B: 感染性胃腸炎

C: その他

- 代謝性疾患
- 炎症性腸疾患
- 外科疾患

3. 検査

○ 必要な検査

- ✓ 血液検査(一般的な項目、抗原特異的IgE抗体)
- ✓ 腹部超音波検査
- ✓ 腹部レントゲン写真
- ✓ 食物経口負荷試験

3. 検査

○ 結果

- ✓ 血液検査(一般的な項目、抗原特異的IgE抗体)
 - 白血球やCRP、肝機能などいずれも正常値
 - 大豆の抗原特異的IgE抗体は陰性

- ✓ 腹部超音波検査
- ✓ 腹部レントゲン写真
 - いずれも異常所見なし

4. 鑑別診断と解説

○ 鑑別診断回答

A: 食物アレルギー → 大豆IgEが陰性

B: 感染性胃腸炎 → 豆腐以外の摂取時には嘔吐なし
発熱などその他感染徴候なし

C: その他 → 診察および検査にて異常所見なし

- 代謝性疾患
- 炎症性腸疾患
- 外科疾患

5. 診断

○ 検査

初診後に入院食物経口負荷試験を行った
豆腐1g摂取(単回負荷)

○ 結果

3時間後に嘔吐1回と活気低下を認めた。

○ 最終診断

新生児・乳児消化管アレルギー
(food-protein induced enterocolitis syndrome [FPIES])

6. 疾患についての解説(1)

- 新生児・乳児消化管アレルギー
(food-protein induced enterocolitis syndrome [FPIES])
- ✓ 新生児から乳児期において主に牛乳が原因で嘔吐、血便、下痢などの消化器症状により発症する疾患
- ✓ 特異的IgE抗体を介する即時型食物アレルギーと異なり、非IgE依存性消化管食物アレルギーと考えられている
- ✓ 抗原特異的IgE抗体の存在が証明される例もあり、IgE依存性反応の遅発相との区別は困難

6. 疾患についての解説(2)

- 新生児・乳児消化管アレルギー
(food-protein induced enterocolitis syndrome [FPIES])
- ✓ 最近10年程度で報告数の急激な増加を認める
- ✓ 原因は乳、米、大豆など
- ✓ 食物除去・負荷試験を中心に診断し、治療は原因食物の除去が基本である
- ✓ 我が国では1歳で半数以上、2歳で9割前後が耐性を獲得

7. 治療・経過

○ 治療にともなう経過

- ✓ 大豆によるFPIESと診断され、大豆および大豆製品の完全除去を開始した。
- ✓ 管理栄養士による除去食の栄養指導を行った。
- ✓ 誤食時には、軽症であれば自宅での水分補給を試み、重症であれば救急診療が可能な医療機関を受診するよう指導した

8. その後の対応

○ 治療方針の見直し

- ✓ 耐性獲得確認の負荷試験の時期は発症時の重症度や基礎疾患の有無、除去期間を総合的に判断して決定

本症例では・・・

- ✓ 1年後に再度食物負荷試験を実施した。
- ✓ 豆腐を1.2g、6g、30g、60gと連日単回負荷を行ったが、いずれも陰性であった。
- ✓ 後日自宅で豆腐を何度か摂取したが、症状を認めなかったため、大豆除去を解除した。

9. 特別な配慮を要する場合

- 専門医への紹介のめやす
- ✓ 被疑食物を除去しても症状が改善しない
- ✓ 他の鑑別疾患が否定しきれない
- ✓ 新生児・乳児消化管アレルギー症例に対する食物経口負荷試験の経験に乏しい、実施が難しい

10. Take Home Message

- この症例を通して伝えたかったこと
- ✓ 抗原特異的IgE抗体が陰性であっても、広義の食物アレルギーは否定できない。
- ✓ 経過から食物アレルギーを疑うが、消化器症状が主な場合は、新生児・乳児消化管アレルギーなどを疑う必要がある。
- ✓ 食物アレルギーの診断のためには、食物経口負荷試験を実施することが望ましい。